

「日本の税に関する問題」

富山県立南砺平高等学校三年 堅田 結愛

私が「税」という言葉を聞いて一番に思い浮かべるのは、「消費税」です。私も買い物をするときに払っていますが、税金を払うことのメリットはあまり感じられません。でも、国民が税金を払うことによって、社会保障制度の恩恵を受けたり、舗装された道路を歩くことができたり、子供が学校で教育を受けたり、警察・消防・自衛隊といった、民間ではできないような行政サービスを受けることができるそうです。小学生・中学生のころは当たり前のように学校に通っていましたが、学校に通えるのも税金のおかげです。税金を払わないと学ぶための費用が賄えなくなるので、安心して学習がすることができなくなります。健康で豊かな生活を送れているのも、税金のおかげです。もし病気にかかった時に病院に行きますが、今は高い医療費を払わなくて済みますが、税金を支払わないと医療費が高くて当たり前病院に行けなくなります。日本では水道の蛇口をひねれば水が出てきますが、世界全体で見ると二十二億人、つまり十人に三人が安全に管理された水を使用できずにいます。外国では、子供が湖や河川、用水路に水をくみに行って水を使っている国もあります。もしも税金がなかったら、今まで当たり前だったことができなくなり、困ることがたくさんあります。例えば、人が倒れているのに救急車が来ないことや、火事になっても消防車が来ないこと、子供たちが安心して学べる環境を整えるための費用をまかなうことができないことなど、色々なことができなくなります。

今、私は住民税などの税金を納めていませんが、税金を納めるときは、税金が地域のためになることを念頭において、納税したいと思います。国民の税金に対する役割は、税金を納めることはもちろん、税金がどのように使われているのかを見守るのもとても大切なことだと思います。